

人や物資一刻も早く

県の支援体制本格化

東日本大震災から一夜明けた12日、県内からも支援に向けた動きが本格化し、消防隊員や医療関係者が続々と現地に向けて出発した。市民も協力できる募金活動も始まった。

【石戸諭、小林一彦、石川勝義】

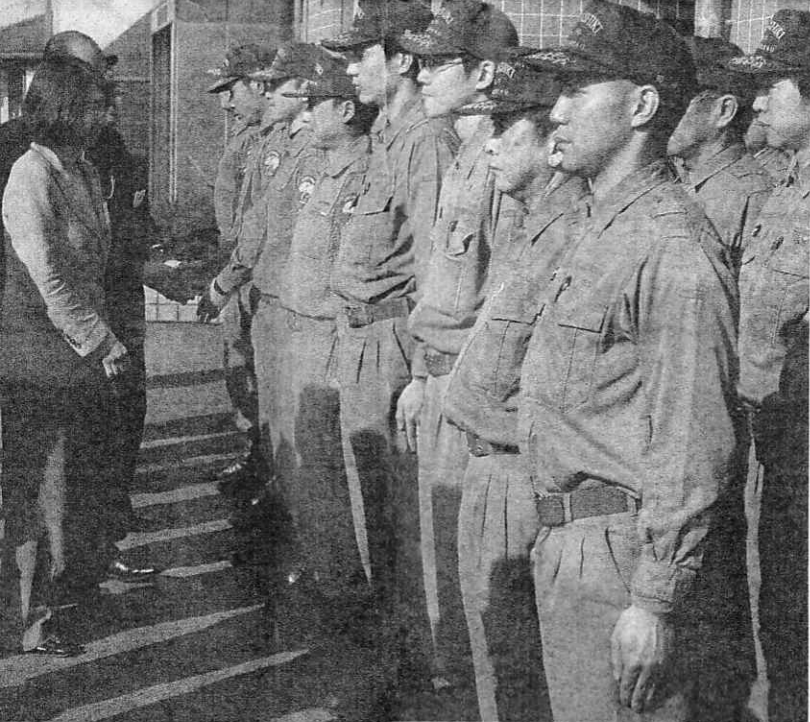
消防・医療隊 次々現地へ

県は午前9時から対策会議を開催。石井正弘知事と関係部局長が集まり、被災地への支援体制を確認した。消防防災ヘリ1台も現地へ向かった。津山市は被災地の復興支援のため災害支援本部を設け、岡山市は仙台市に毛布やクランクカーなど救援物資を提供することを決めた。

岡山市や倉敷市など県内の14消防本部は、消防庁の要請を受けて37隊149人を現地に派遣。倉敷市消防局では午前9時前、同市白楽町の本部から22人が救助工作車などに乗り込み出発した。伊東香織市長は「全国から支援が来ていると現地の

人に安心してもらえる活躍を」と激励した。美作市や総社市など6市の水道局職員も支援に向かった。

倉敷中央病院など県内5病院計27人は医療チームを結成。このうち岡山赤十字病院は、原子力発電所周辺住民の避難所となっている福島県立郡山高に救護



被災地に向かう消防隊員らを激励する伊東市長ら—倉敷市消防本部で

所を開設した。県医師会も医師ら3人を同県に派遣。北区の陸上自衛隊三軒屋駐屯地は宮城県大和町に部隊を派遣した。新見市の公設国際貢献大学校は毛布やおむつなど救援物資をトラックに積んで出発した。

注意報を解除した。同気象台によると、玉野市宇野港で11日午後8時1分に観測された10メートルの津波を超える海面の変動はなかったという。県沿岸部では津波注意報で宇高航路などの夜間運航や貨物船の

積み下ろし作業が規制されていたが、同55分から平常通りの運航や作業に戻った。空路は、岡山空港によると、羽田—岡山間で1便が欠航したほか、2便に遅れがあった。

まず情報収集
AMD A山形へ
国際医療救援団体「AMD A」（本部・北区）は、石岡市看護師や横山明子調整員ら6人の医療チームを派遣。新潟空港から山形県南陽市に入り、情報収集して活動内容

を決める。高齢者福祉施設での支援を検討しているという。今後もスタッフを追加派遣する予定。横山調整員は「現地は混乱している。足りない情報を収集して支援を始めた」と話した。

【石川勝義】



東北地方の被災地へ向かう石岡看護師（左）と横山調整員（中央）—北区のJR岡山駅で

県内の主な募金窓口

- ◆公設国際貢献大学校 郵便振替（口座番号01390-4-93879、口座名「ももたろう国際救援隊」、通信欄に「東北地方太平洋地震」と記入）
- ◆AMD A 郵便振替（口座番号01250-2-40709、口座名「特定非営利活動法人アムダ」、通信欄に「13」か「東北地方太平洋沖地震」と記入）
- ◆日本赤十字社県支部 銀行振込（中国銀行本店・普通口座761168、トマト銀行本店・普通口座1430925、いずれも名義は日本赤十字社岡山県支部。通信欄に「東北地方太平洋沖地震」と記入）